

JHFREPORT



アジア女王の座を奪還！ 第3回パラグライディングアキュラシア選手権より。12ページからの大会報告をご覧ください。

2016年JHF通常総会を開催しました

6月21日（火）、東京都北区の北とぴあ、第2研修室において、全国から47正会員（都道府県連盟）の出席（委任状3会員、議決権行使2会員を含む）を得て、2016年JHF通常総会を開催しました。

議題は以下のとおりです。

報告事項1：2015年度事業報告

報告事項2：2015年度決算報告・監査報告

決議事項1：貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認

報告事項3：2016年度事業計画

報告事項4：2016年度収支予算

決議事項2：JHF役員選任規約の一部改正について

決議事項1、2ともに承認されました。総会の議事録はJHFウェブサイトの「情報公開」ページに掲載します。また、2015年度事業と決算の報告は2ページ

から、JHF役員選任規約の一部改正については6ページをご覧ください。



2016年通常総会。初めての会場での開催となった。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

JHFの2015年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2015年度事業報告」より

2015年4月1日から2016年3月31日までの1年間に、JHFが取り組んできた事業を報告します。

I 概要

会員数はほぼ横這いですが、日本学生フライヤー連盟の新入生勧誘活動により学生の登録数が増えました。大学を卒業した後も安全に飛び続けてもらえる環境を検討しています。

パラグライディング・アキュラシー世界選手権で、吉富周助選手が121人中6位、FAIワールドエアゲームズで岡芳樹選手が9位の成績でした。

パラグライダーでは、平木啓子選手の直線距離353kmと目的地直線距離

301km、阿部章吾選手の25km三角コース速度39.91km/h、ハンググライダーでは磯本容子選手の目的地直線距離367.6km、以上の4つの日本記録が更新されました。

当期は残念ながら重大事故が目立ちました。

『パラグライディング教本副読本・動力付きパラグライダー』の頒布を開始、MPGパイロット安全セミナー用に資料を作成しました。

1. 収支の現状

公益社団の認定を受けた時に求められた公益目的財産の消化は順調に進み、単年度赤字が350万円ほど計上さ

れ、次期繰越金は1000万円を割り込みました。

フライヤー会員からの会費収入の規模に比べ、安全啓蒙活動や教本などの指導力強化に資金を多く投入し、将来に備えています。JHFの財力は、まだあと数年はこの程度の赤字を続ける余力がありますが、その期間のうちに再び若い世代が活発に飛び始める環境を整えなければ、尻すぼみに衰退してしまいます。当面の持続費用を賄うために、一度は公益目的事業基金に凍結した資金の一部を解除することにしました。安全面を向上させ、事故を無くすまで赤字でも対策資金を投入します。確実な効果をあげ、近い将来のJHFの

2015年度決算報告より

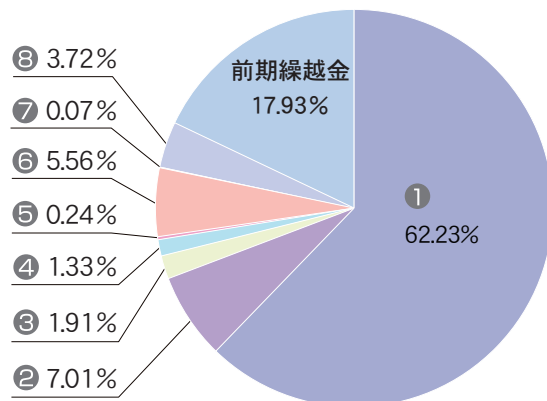
収 入 (単位:円)

① 会費等	41,561,993
② 技能証の発行に基づく収入	4,679,500
③ 競技に関する収入	1,275,500
④ 教本等の頒布に伴う収入	886,400
⑤ 検定会参加費	160,000
⑥ 補助金	3,712,000
⑦ 機体登録費	50,000
⑧ その他	2,483,417
前期繰越金	11,976,553
合 計	66,785,363

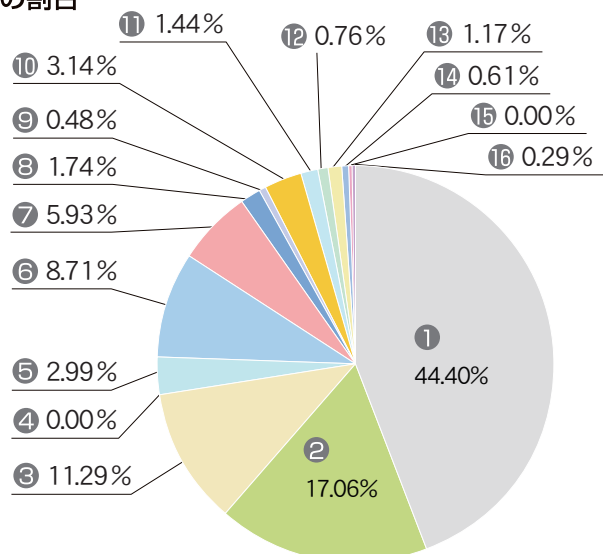
支 出 (単位:円)

① 会員サービスのために	25,890,942
② JHFの維持運営のために	9,946,996
③ 都道府県連盟の補助のために	6,581,907
④ 公益事業の推進のために	0
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	1,741,670
⑥ 広報・普及活動のために	5,078,286
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	3,460,000
⑧ 競技のために	1,016,470
⑨ よりよい教習環境のために	277,020
⑩ 委員会活動のために	1,828,525
⑪ 補助動力のために	841,286
⑫ 学生の補助のために	445,242
⑬ 事故調査や安全のために	680,540
⑭ 海外との交流のために	354,196
⑮ 制度のために	0
⑯ 総会のために	168,174
合 計	58,311,254

収入の割合



支出の割合



財産としていきます。

2. 組織運営等

- 1) 『JHFパラグライディング教本副読本〔動力付きパラグライダー〕』の頒布を開始
- 2) MPGパイロット安全セミナー資料を作成
- 3) パイロット安全セミナーを開催
パラグライダー：2カ所66名参加、ハンググライダー：1カ所約100名参加
- 4) 教員検定員による教員助教員更新講習会を11カ所で開催、48名が受講
- 5) レスキューパラシュートトリパック更新講習会を11カ所で開催、37名が受講
- 6) 教員検定会にて5名を新しくパラグライディング教員に認定
- 7) 内閣府定期立入検査（10月22日）への対応（問題なく終了）

3. 特記事項

- 1) 第38回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月25日（土）～26日（日）
滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 埼玉スカイスポーツフェスタ2015を共催
10月25日（日）
埼玉県熊谷市妻沼滑空場
- 3) 第21回スカイスポーツシンポジウムを協賛
11月28日（土）
日本大学理工学部・駿河台校舎
- 4) 日本記録更新
ア）11月2日の平木啓子選手の直線距離 353km（ブラジル キシャダ～アルト・ロンガ）、目的地直線距離301km（ブラジル キシャダ～カステロ・デ・ピアウイ）
イ）7月18日の阿部章吾選手の25km三角コース速度39.91km/h（フランス ブランフェ～タロワール）
ウ）2016年1月7日の礪本容子選手の目的地直線距離367.6km（オーストラ

- リア フォーブス～ウォルゲット）
- 5) 平成27年度一般財団法人日本航空協会「空の日」航空関係者表彰式が開催（9月18日）され、日本記録証を山崎能啓氏（パラグライダー一般目的地直線距離215.4km ブラジル キシャダ～ボランガ）、阿部章吾氏（パラグライダー一般25km三角コース速度39.91km/h フランス ブランフェ～タロワール）に授与された。
 - 6) 一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」に東京都ハング・パラグライディング連盟（8月1日～2日、2016年2月7日）、宮城県ハング・パラグライディング連盟（2016年3月19日）が協力。

II 事項別状況

1. 組織

- 1) 会員数
正会員 47
フライヤー会員 8,123名（2016年3月末有効登録数）
賛助会員 13
- 2) 役員構成
理事 7名（内会長1名、副会長1名）
監事 1名（2016年3月末現在）

2. 会議等の開催

- 1) 総会
2015年6月通常総会
開催通知：4月6日（月）
開催日：6月23日（火）11:00～17:00
開催場所：東京体育館 第一会議室（東京都渋谷区千駄ヶ谷）
議案：
報告事項1：2014年度事業報告について
報告事項2：2014年度決算報告について
決議事項1：貸借対照表及び損益計算書の承認について
報告事項3：2015年度事業計画について
報告事項4：2015年度収支予算について
決議事項2：JHF役員選任について

報告事項5：日本体育協会加盟について

- 2) 理事会
第1回理事会
5月21日 出席：理事9、監事2
第2回理事会
6月23日 出席：理事7、監事1
第3回理事会
7月9日 出席：理事7、監事1
第4回理事会
10月8日 出席：理事7、監事1
第5回理事会
3月23日 出席：理事7、監事1
文書理事会
6月12日、7月21日、8月10日、8月24日、8月28日、10月22日、11月9日、1月21日、1月29日（2件）、3月31日
- 3) 委員会
☐ ハンググライディング競技委員会
競技会開催時に実施
☐ パラグライディング競技委員会
2016年1月21日、その他競技会開催時に実施
☐ 補助動力委員会
4月23日、11月6日、2016年2月8日
☐ 教員・スクール事業委員会
6月24日、12月16日
☐ 安全性委員会
4月14日、6月22日、10月6日
☐ 制度委員会
すべて電子メール会議
☐ ハングパラ振興委員会
4月22日、7月15日、10月21日、2016年1月21日、3月29日
☐ 役員選任実行委員会
4月14日、5月14日
☐ 委員長理事合同会議
3月8日
* 上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

- 1) 普及振興活動
☐ JHFレポートを発行（4月、7月、10月、1月） * 独立行政法人日本ス



空の日の表彰式で日本記録証を授与された山崎能啓氏。



航空スポーツ教室に協力。子どもたちは大喜び。



総会での役員選挙で選任された理事たちと監事（左端）。

スポーツ振興センター・スポーツ振興く
じ助成を受けて発行しています。
☐都道府県連盟事業費の交付
☐日本学生フライヤー連盟へ助成金交付
2) フライヤー会員登録
登録数：2015年度 新規・更新6,020名
(2014年度5,904名)
3) 技能証発行
☐HG：226枚 (2014年度227枚)
☐PG：1,018枚 (2014年度1,040枚)
☐MPG：24枚 (2014年度41枚)
☐レスキューリパック認定証：46枚
(新規5・更新41)
4) 競技会の主催・公認・後援
☐HG：17件 (内FAIカテゴリー I・II：2件)
☐PG：32件 (内FAIカテゴリー I・II：2件)
☐HG・PG同時開催：3件
5) 競技会の開催
☐HG：
・日本選手権
9月19日～23日 茨城県足尾エリア
参加55名 日本選手権者：田中元気
女子日本選手権者：磯本容子
・クラスV日本選手権
10月31日～11月3日 茨城県足尾エリア
参加21名 日本選手権者：板垣直樹

・ハンググライディングシリーズ
1位：大門浩二 女子1位：磯本容子
・ハンググライディングXCリーグ
1位：砂間隆司 (173.3km)
☐PG：
・日本選手権
10月9日～12日 茨城県足尾エリア
参加71名 日本選手権者：若山朋晴
女子日本選手権者：平木啓子
・アキュラシー日本選手権
10月10日～12日 岩手県夏油エリア
参加18名 日本選手権者：吉富周助
・ジャパンリーグ (参加人数105名)
オープンクラス1位：呉本圭樹 同ク
ラス女子1位：高田奈緒 スポーツク
ラス1位：高田奈緒 同クラス女子
1位：高田奈緒
・ジャパン2リーグ (参加人数48名)
総合1位：岩谷勝弘 女子1位：橋本
泉
・クロスカントリーリーグ (32名92本)
1位：中川喜昭 最長フライト：中川
喜昭 (168.6km)
・アキュラシージャパンリーグ (参加
人数24名)
スクラッチクラス1位：岡芳樹 同ク
ラス女子1位：伊藤まり子 ハンディ
キャップクラス1位：和田浩二 ルー

キークラス1位：該当者なし
6) スクール・エリア情報の収集及び
公開
☐スクールサイト登録校152件 (うち
新規登録校5件、削除3件)
☐エリア情報掲載178件
7) 海外関係団体活動
☐CIVL総会
2016年2月18日～21日 スイス
出席者：デレグイト／岡芳樹、HG競
技委員／牟田園明
8) 世界選手権へのチーム派遣
☐第8回パラグライディングアキュ
ラー世界選手権
参加選手：9名
8月9日～17日 インドネシア プン
チャック
☐2015FAIワールドエアーゲームズ
参加選手：1名
12月1日～12日 アラブ首長国連邦ド
バイ
9) その他
☐機体型式登録：25件 (PG：25件、
HG：0件)
☐機体情報登録：103件 (PG：89件、
HG：14件)

2015年度の委員会活動

JHFの事業の多くは各委員会が担っ
ています。それぞれの活動について、
2016年通常総会で「2015年度委員会活
動補足」として報告されました。(事
業報告と重複する部分があります。)

ハンググライディング競技委員会

委員長：板垣直樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB登録によるエントリーの簡
素化
- 3) 委員会ホームページの運営
大会公認案内、エントリー案内等の更
新は随時実施。
- 4) ライブトラックの競技導入により
集計の簡略と安全運営の両立。
- 5) 2015年ハンググライディング・ク
ラスI日本選手権開催 (茨城・足尾)
9月19日～23日 55名参加 タスク5
本成立。日本選手権者：田中元気、2
位：鈴木博司、3位：松田晃明、4位：
加藤実、5位：大門浩二、6位：砂間

隆司 女子日本選手権者：磯本容子、
2位：野尻知里、3位：谷古宇瑞子
6) 2015年クラスV日本選手権開催
(茨城・足尾)
10月31日～11月3日 21名参加。タス
ク3本成立。日本選手権者：板垣直樹、
2位：塩野正光、3位：松田隆至
7) ハンググライディングシリーズ管
理運営
参加人数：94名 1位：大門浩二、2
位：田中元気、3位：鈴木博司 女子
1位：磯本容子、2位：鈴木皓子、3
位：野尻知里
8) ハンググライディングXCリーグ
管理運営
1位：砂間隆司 (173.30km)
9) 各種大会のJHF公認および後援申
請に対する審議および承認

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

- 1) ルールブックの改訂

2) WEB事務局・ホームページ管理
3) 第8回パラグライディング・アキュ
ラー世界選手権 (インドネシア、プ
ンチャック：8月9日～17日) へ選手
派遣 (男子8名、女子1名) 横井清順、
岡芳樹、吉富周助、古賀光晴、川村眞、
伊藤まり子 (以上チームメンバー)、
古田岳史、小松理樹、菅野剛広 (以上
個人参加)。総合1位：デデ・スプラッ
トマン (インドネシア) 2位：マチ
アス・スルーガ (スロベニア)、3位：
トーマス・レドニック (チェコ)、6位：
吉富、35位：岡、42位：横井、61位：
小松、68位：菅野、89位：古田、94位：
古賀、97位：伊藤、115位：川村。女
子1位：ナナパット・プチョン (タイ)、
2位：ヘー・ジョン・チョ (韓国)、
3位：ヨランタ・ロマネンコ (リトア
ニア)、16位：伊藤まり子。国別1位：
タイ、2位：セルビア、3位：インド
ネシア、8位：日本。
4) 2015 FAIワールドエアーゲーム



ハンググライディング日本選手権者、田中と磯本。



板垣が5連覇、ハンググライディングクラスV日本選手権。



アキュラシー世界選手権で古富が6位（日章旗を手に）。

ズ（ドバイ、アラブ首長国連邦：12月1日～12日）へ選手派遣（男子1名）
岡芳樹 総合1位：ジョージ・コテット（ルーマニア）、2位：マー・チャン（中華人民共和国）、3位：ゴラン・デュルコヴィッチ（セルビア）、9位：岡

5）Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理

・Jリーグ結果（参加人数105名）

オープンクラス1位：呉本圭樹、2位：岩崎拓夫、3位：上山太郎 同クラス女子1位：高田奈緒、2位：山下敦子、3位：平木啓子 スポーツクラス1位：高田奈緒、2位：山下敦子、3位：中目みどり 同クラス女子1位：高田奈緒、2位：山下敦子、3位：中目みどり

・J2リーグ（参加人数48名）

総合1位：岩谷勝弘、2位：藤原功、3位：荒木哲也 女子1位：橋本泉、2位：坂本智春、3位：中目みどり

・XCリーグ（30名、92本）

1位：中川喜昭（470.7km）、2位：二三四藤昭（434.7km）、3位：関口典彦（340.4km） 最長フライト：中川喜昭（168.6km）

・AJリーグ（参加人数24名）

スクラッチクラス1位：岡芳樹、2位：和田浩二、3位：横井清順 同クラス女子1位：伊藤まり子、2位：内田薫、3位：菊田久美 ハンディキャップクラス1位：和田浩二、2位：岡芳樹、3位：横井清順 ルーキークラス：該当者なし

6）2015年度日本選手権開催（茨城県足尾エリア）10月9日～12日 タスク3本成立 71名参加 規定により日本選手権として成立。日本選手権者：若山朋晴、女子日本選手権者：平木啓子 総合1位：ヨスト・ナブレット（スロベニア）、2位：若山朋晴、3位：中川喜昭、4位：成山基義、5位：呉本圭樹、6位：酒井節夫 女子1位：平

木啓子、2位：高橋美佳、3位：山下敦子 スポーツクラス1位：村田好彦、2位：元山工、3位：山本雅史 同クラス女子1位：高橋美佳、2位：山下敦子、3位：高田奈緒

7）2015年度アキュラシー日本選手権開催（岩手県夏油エリア）10月10日～12日 4ラウンド成立 18名参加 規定により日本選手権として成立。日本選手権者：吉富周助 総合1位：吉富周助、2位：岡芳樹、3位：横井清順、4位：川村真、5位：古田岳史、6位：伊藤まり子 女子1位：伊藤まり子、2位：宮手裕子、3位：菊田久美 ハンディキャップ1位：吉富周助、2位：横井清順、3位：岡芳樹

安全性委員会

委員長：桂敏之

1）パイロット安全セミナーを開催 PG：2カ所開催 66名参加（2014年10カ所 204名参加） HG：1カ所開催 約100名参加（2014年 2カ所 49名参加）
2）HGの機体整備票の運用
3）型式登録、機材情報登録の運用・JHFレポートへ掲載
4）DHV・PMA・クリーゲル氏と会談
5）事故調査と報告
6）バーディゴ検証
7）MPGパイロット安全セミナー資料作成

【2015年度の事故報告】

1. 4月16日 埼玉県 MPG 溺死 十分な知識を持たない初心者がMPGユニットでフライトし川に墜落。
2. 4月25日 愛媛県 MPG 海面に激突し全身打撲により死亡 知人の機材で飛行。スパイラル後、そのまま海に墜落。
3. 5月10日 京都府 PG 溺死 河川敷に着地する予定が、風に流され着水。
4. 5月20日 三重県 MPG 死亡

海岸で飛行中の事故。経験約10年。スピンしながら墜落。

5. 6月24日 兵庫県 PG 死亡

レッグベルト装着忘れの落下事故。

6. 7月12日 北海道 MPG 死亡 海岸で死亡を確認。目撃者無し。

7. 7月17日頃 スイス PG 死亡 事故者は10年以上毎年スイスで飛行しているベテラン。山際で潰されレスキューパラシュートを投げたが、山肌に接触して滑落死。

8. 7月29日 長野県 PG 死亡 湖上でSAT練習中の事故。バーディゴ、ブラックアウト、または操作ミス。詳しい原因はわかっていない。死亡原因：心臓破裂、大動脈破断。

9. 8月1日 長野県 PG 死亡 山肌を攻め過ぎたことによる潰れから、その後の回復操作が不適切。山肌に激突。事故者は約20年の経験。

10. 8月2日 静岡県 PG タンデム パッセンジャー頬骨折

ハーネスのレッグベルト装着忘れ。
11. 8月15日 徳島県 MPG 意識不明

台の上でエンジン始動を行い、エンジン始動と共にユニットが倒れてプロペラが頭に接触し頭蓋骨折。

12. 8月28日 静岡県 PG 死亡 強風時のテイクオフによる事故。

13. 9月5日 宮崎県 HG 死亡 離陸時安定3m/s位の風が吹き、飛び乗りし片翼がひっかかり、グランドループし側溝に接地。

14. 10月18日 徳島県 PG 死亡 通常のフライト開始、約20分後、空中で意識不明となり発見時には死亡。

15. 11月15日 鳥根県 MPG 死亡 ハイパワーで離陸直後、ストール＋ツイスト。溺死。

16. 12月10日 栃木県 PG インストラクター 重症 テイクオフサポート中、手が絡まり浮き上がり50m落下

事故死亡者：MPG 5 名、PG 7 名、HG 1 名

教員・スクール事業委員会

委員長：山谷武繁

- 1) 教員検定会 PG 5 名 HG 0 名
- 2) 教員助教員更新講習会 11カ所 48名受講
- 3) レスキューパラシュートトリパック 認定証更新講習会 11カ所 37名受講
- 4) レスキューパラシュートトリパック 認定 46名(新規5名 更新41名)
- 5) PG教本改訂(進行中)
- 6) HG教本作成(進行中)
- 7) レスキューパラシュートトリパック 認定証についての見直し
- 8) 検定員、教員制度の見直し

補助動力委員会

委員長：須藤彰

- 1) PG教本副読本・動力付きパラグライダー完成、頒布開始。
- 2) 下総航空自衛隊安全会同参加
- 3) 重大事故多発のためMPGパイロット安全セミナー計画準備
- 4) MPG大会の開催を検討



若山と平木、パラグライディング日本選手権者に。

制度委員会

委員長：小林秀彰

- 1) JHFに関わる制度の定款、規約、規程、規則等の文書管理
- 2) FAI技能記章規程改訂(アキュラシー部門追加)の提案
- 3) FAI技能記章交付規程の提案
- 4) FAI技能記章申請書の提案
- 5) FAI公式立会人の検討
- 6) HG教本全面改訂作業に協力
- 7) 公益財団法人日本体育協会の組織、保険の調査結果の報告

ハングパラ振興委員会

委員長：井上潔

- 1) ハンググライダーのパンフレット(紹介版)作成(進行中)
 - 2) 現在飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
- ーフライヤーズボイスの活用を検討

役員選任実行委員会

委員長：荒井稔

- 1) 2015年JHF総会にて役員選任の手配等
- 2) 役員選任規約改訂について検討



アキュラシー日本選手権は古富が2連覇を果たした。

JHF役員選任規約を改正しました

2016年JHF通常総会において役員選任規約の改正案が議決されました。

役員選任実行委員会と制度委員会では、2015年に行われた役員選任における課題点を検討し、今年度の通常総会に役員選任規約の一部改正を上程しました。当規約の変更は総会にて行う事が定められています(理事会で変更を決定することはできません)。

当改正案の主たる部分は以下のとおりです。

- 1 役員選任実行委員会が、役員業務遂行能力を立候補時に確認できることとした。
電磁式方法が行使できるかどうかを確認できる事を明記しました。
- 2 住民票所在地以外の正会員が役員候補を推薦できることとした。
居住地と活動地域が異なるフライヤーに対しても、役員への門戸を開く事としました。

総会では当改正議案に対して正会員から活発な意見が出されました。議論の結果、満場一致ではありませんでしたが、改正案は可決されました。この結果、来年実施される役員選任は、改正後の規約により実施されます。

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

現在、JHFでは二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用しています。

日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF安全性委員会が審査し判定しています。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHFが登録証明書を発行します。

また、2010年11月より「機材情報登録

機」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用しています。この「機材情報登録」は、輸入者／製造者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHFとして実態を掌握することを目的としています。

1980年から現在までに登録されたハンググライダー・パラグライダーの情報は、JHFウェブサイト、安全性委員会のページの「型式登録・登録機リスト」に掲載しています。同ページの「セーフティノート」もぜひご覧ください。

機材 情報登録機	
登録番号	H-0016
登録年月日	2016年3月25日
製造者	Wills Wing Inc.
製造国	アメリカ合衆国
型式	Falcon 4 Tandem
認証	HGMA
推奨技量	TD証
推奨体重(kg)	100~210
輸入者名(販売者)	スポーツオーパカイト
URL	www.opa.co.jp

JHFの動き

MPG安全セミナー

開催のお願い

2015年4月から11月の間にMPG（モーターパラグライダー）で5名もの尊い命が失われる事故が発生しました。

パイロットの高齢化など決して予断を許さない状況です。

JHFでは、事故対策のひとつとして、補助動力委員会、安全性委員会の両委員会が協力して「MPGパイロット安全セミナー」の資料を作成しました。

JHFフライヤー会員だけでなく、モーターで飛ぶ人すべてに伝えたい内容です。そこで、都道府県連盟やエリア管理者の皆さまに安全セミナーの開催をお願いしています。

資料、講師など詳細は、JHF事務局にお問い合わせください。

常設委員会の

新委員長が決まりました

JHF常設委員会の新委員の活動がこ

の4月から始まりました。2018年3月末の任期満了まで、JHFのさまざまな事業に活躍します。まず、委員の互選によって各委員長が決まりました。

HG競技委員会：板垣直樹

PG競技委員会：岡芳樹

安全性委員会：伊尾木浩二

補助動力委員会：須藤彰

教員・スクール事業委員会：山谷武繁

制度委員会：小林秀彰

ハング・パラ振興委員会：井上潔

役員選任実行委員会：鈴木由路

熊本・大分地震被災地への 義援金を募ります

この4月14日夜から相次いで発生した地震により、熊本県・大分県は大きな被害を被りました。

東日本大震災の被災地を応援したい、日頃のフライトに対する地域のご理解・ご支援への恩返しができたらと、JHFでは「東日本大震災被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」」とし

久米島フライトは許可が必要に

久米島の航空自衛隊基地に新しいレーダーが設置されたことで、パラグライダー、モーターパラグライダーで久米島で飛ぶときには事前に那覇航空局に申請し国交省から許可を得ることが必要となりました。ビクターが久米島で飛ぶ場合は事前に申請し許可を得ないと航空法違反となります。フライトの前には、那覇空港情報管制管（TEL：098-859-5132）に確認してください。ご不明な場合は下記へご連絡ください。

ブルーフィールド久米島

tel：09059225283

mail：info@bluefield-kumejima.com

て義援金を募ってきました。

熊本・大分の方々にもフライヤーの感謝と応援の気持ちを伝えたいと、この「空はひとつ」にお寄せいただいた義援金を、今年8月末までは熊本・大分向けとします。皆さまのご協力をお願いします（振込先：16ページ）。

第4回 JHF ハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 作品募集！

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが写真を通じてできるだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、フォトコンテストを開催しています。

第3回では、フライヤー以外の方も含め全国から多数の作品が寄せられました。まことにありがとうございます。今回、第4回もハンググライダー、パラグライダーの楽しさを伝えられるような作品、多くの方々からのご応募をお待ちしています。

【募集要項】

主催者：公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

テーマ：ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品

募集部門：

1. 空撮部門

ハンググライダー、モーターハンググライダー、パラグライダー、モーターパラグライダーを利用して空中から撮影した写真

2. 地上撮影部門

上記の1に該当するもの以外

各賞と賞金：

両部門共通

・最優秀賞 1点 賞金10万円

空撮部門

・優秀賞 2点 賞金各3万円

・入選 数点以内 賞金各1万円

地上撮影部門

・ハンググライダー賞 1点 賞金3万円（ハンググライダー、モーターハンググライダーを中心とした作品）

・パラグライダー賞 1点 賞金3万円（パラグライダー、モーターパラグライダーを中心とした作品）

・入選 数点以内 賞金各1万円

審査員：別途ご案内します。

応募締切：2016年9月1日（木）必着
審査結果発表：2016年10月上旬（JHFホームページ上で発表し、入賞者にはメールで連絡します。）

応募の条件：

1. プロ、アマ、年齢を問いません。
2. 未発表の作品に限ります。
3. 応募に伴う費用は応募者の負担と

します。

応募の方法：

- ・作品は印画紙（プリント）でご応募ください。スライド、フィルム、データの形式による応募はできません。
 - ・銀塩フィルムでもデジタルカメラで撮影されたものでも応募できます。
 - ・プリントサイズは、六つ切りからワイド四つ切、A4ノビ程度まで。
 - ・カラー、モノクロ、ソフトウェアにより加工されたものも応募できます。
 - ・入賞作品についてはデジタルカメラデータ等を提出していただきます。
 - ・応募用紙に題名（ふりがな）、撮影場所、撮影年月日、氏名（ふりがな）、天地方向ほか必要事項を記入し、JHF事務局・フォトコンテスト係宛に作品と一緒に送ってください。
- 応募用紙はJHFウェブサイト（<http://jhfhangpara.or.jp/>）からダウンロードしてください。

見る人が楽しくなる、飛びたくなる、そんな作品をお待ちしています。お気軽にご応募ください！

2016年欧州レポート

報告：JHF安全性委員長／教員・スクール事業委員／補助動力委員 伊尾木 浩二

今年も、新たな情報を得るため、またJHFとの繋がりを維持することも含め、欧州の各連盟等を訪問しました。

訪問は5年目となり、各連盟、組織の新たな動きと変化する様子が理解できるようになってきました。パラグライダーの進化と安全規格であるEN認証の位置付け、事故多発との関連性を考えるよい機会となったと思います。今回は、モーターパラグライダーのドイツの基準、組織の活動などについて学ぶため、動力系の協会も訪問し新たなパイプを作りました。

報告したいことは多くありますが、いくつかを報告します。ここに書ききれない情報は、教本改訂やパイロットセミナーなどに活用していきます。

EAPR EN 認証の変化

EN認証機関であるEAPR (European Academy of Parachute Rigging) のCEO、Guido Reusch氏を訪問。

EAPR訪問は初めて。ミュンヘンから北西へ、アウトバーンを使って車で1時間ちょっとで到着。閑静な住宅街にある代表の自宅内に事務所があった。1階にはENテストに使う測定器などが多く置かれていて、それぞれの使い方とともに、ハーネスの落下テスト、ハーネスベルトの引っ張り試験、ラインの屈折耐久や破断テスト、モーターパラ



EAPRのGuido Reusch氏。



EAPRでは種々の試験について説明してもらった。

グライダーの腰吊り用アームの破断強度、ライン測定方法、ライン強度負荷シミュレーションソフト、そしてカラビナの問題などについて、安全に関わることを親切丁寧に説明していただいた。

EN認証の変化のひとつは、今年から全耐荷重の14Gの配分を自由に設定できるようになったことだ。これまではフロント側ライザーで8G、リヤ側ライザーで6Gと定められていたが、全部のライザーで14Gになれば可となった。これから、このライン設定によって各メーカーの設計に差が出てくるのかもしれない。

いろいろな質問に対して、丸一日かけてしっかり応じてもらえ、たいへん参考になった。

DHV Safety クラス

ドイツのハンググライディング・パラグライディング連盟、DHV (Deutscher Hangeleiterverband e.V.) 代表のKlaus Tanzler氏、技術顧問であるKarl Slezak氏を訪ねた。

今回が5度目の訪問になる。お互いの活動に対する理解も進み、日頃からメールでの情報交換もして、よい関係を築いている。

再会の挨拶もそこそこに彼らから聞かされたのは、ドイツ人フライヤーとしては初めてパラグライダーのタンデム死亡事故が、しかも2件起きたということ。

1件は、親子のタンデム飛行中の事故。ランディング場上空約100mで操作ミスだと思われるが、失速に入ってしまった、旋回しながら接地。パッセンジャー（娘 26歳）が2週間後に死亡。パイロット（父親）はレスキューパラシュートを投げようとしたが、ハーネ

スから出ず、パラシュートを引き出すことができなかった。DHVでは、その機材を預かり確認した結果、ハーネスに問題があると判断したとのこと。その後はタンデムハーネスのGフォーストレーナーを使って試験を行っている。

もう1件は、2名のベテランパイロットがチームとしてハイクアップレースに出場し、パッセンジャーのパイロットがハーネスのレッグベルトを付け忘れてフライト、落下したというもの。

レースということもあり、急いだことが事故の背景にあるのだろうが、何が問題だったかは不明。

ドイツ人フライヤーのプライベートタンデムと商業タンデムの割合はおおよそ50%ずつ。2件の死亡事故はどちらもプライベートだった。日本では商業タンデムの割合が圧倒的に多く、タンデム事故も数件発生している。DHVとの情報交換も積極的に行い、日本での事故対策に役立てられるようにしたい。

私からはSafetyクラスの信頼度について質問を投げかけた。DHV独自の判断で設けられたSafetyクラスは、多くのユーザーの評価を受けており、メーカー側は危機感も持っていると聞いていたからだ。

SafetyクラスはEN認証と異なり、全てのサイズ機でのテストは行われない。ドイツ人の半分以上がMサイズでフライトしているため、テストはMサイズで行うのだという。Safetyクラスとは、ある機種のサイズを限定した試験結果ということになり、サイズが異なれば全く違った結果が出てくる場合もあることを考慮したうえで機種選定をする必要を感じた。

Safetyクラスのテストは、2名の専属ベテランパイロットが担当しており、彼らはENテストには参加していない。

PMA EN-B 認証機

PMA (Paraglider Manufacture Association) のCEO、Hans Bausenwein氏を訪問。

PMAは、パラグライダー機材メーカーが集まる組織で、今回が4度目の訪問。

欧州と日本が抱えている問題点など



DHVのTanzler氏（左）とSlezak氏。

を話し合った。

EN認証Bクラスの機体の性能幅が広く、日本でも事故が目立っている。今は「Bクラスなら安全だろう」という認識は通用せず、機体性能をよく理解し慎重に判断したうえで乗らねばならないのだ。

CEOのBausenwein氏は以下のように語ってくれた。

「現在のEN-B認証機のアスペクト比は5.2から最大6.2になります。アスペクト比6.2は、2004年の認証レベルではDクラスに相当します。12年前はDクラスの機体が今はBクラスに入っているのです。機体メーカーの開発力向上によって現在のテスト基準ではBクラスに入ってしまうというのが現実でもあります。

声を大にして言いたいのは、『Bクラスなら安全』という考えは間違っているということ。適切な操作をしなければ、テスト基準より大きな潰れを誘発することもあります。中級機のなかには高い操作性が求められる機体もあることを覚えておってください。

今、機体選定時に、Bクラスのアスペクト比を考慮することが重要です。高い安全意識に基づいて機材を選び、自分の技量をよく考えてフライトして

いただきたいと思います。」

DULV モーターパラの事故

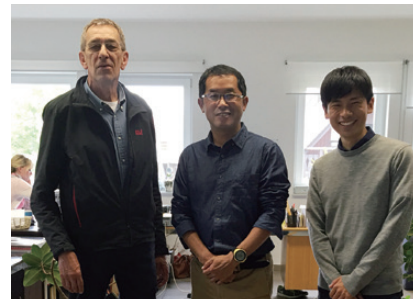
初めてドイツ超軽量飛行協会、DULV (Deutsche Ultraleichtflugverband) を訪問。代表のJo Konrad氏に会うことができた。日本のモーターパラグライダーの諸問題に対する組織の在り方を勉強するため、また今後情報交換を行うことが訪問の目的だ。

DULVは1979年に発足。2000年頃まではドイツ交通省が全ての航空機の認証を与えており、その後、超軽量飛行機についてはDULVが国から委託されることとなった。動力を持たないハンググライダー・パラグライダーはDHVが受け持ち、動力付きはDULVが管轄している。管轄の対象は、プロペラと動力で飛ぶもので機体重量（パイロット重量含む）450kg以下。そのうち120kg（パイロット重量は別）までのカテゴリーにモーターパラグライダーが含まれる。

ドイツのモーターパラグライダー人口は約6000人といわれ、3年前に一度起きて以降、重大事故は発生していないとのこと。日本では事故が多発しており、大きな対策の必要性を痛感した。空を飛ぶ以上は誰もがリスクを負



PMAのHans Bausenwein氏。



DULVのKonrad氏、伊尾木、通訳の久留島君。

う。しかし、過去の事故に学べば防げたはずの事故は少なくない。二度と同様の事故が起きないように、情報発信を続けることの大切さ、スクールやクラブ、連盟にも加入せず単独で飛行する人に対して働きかける重要性をさらに感じた。フライヤーのネットワークを増やすとともに、セミナー等を通じて安全策を考えていきたいと思う。



これからも欧州と日本を繋ぐパイプを育て、情報交換を積極的に行い、安全性向上に役立てられるようにしたい。

モーターパラグライダー事故をなくすために

JHF補助動力委員会 委員長 須藤 彰

フライトするのに気持ちのいい季節となりましたが、昨年は死亡事故が多く発生し、なかでも動力付きのパラグライダー（以下、モーターパラグライダー）は5件と最悪の数字となり、補助動力委員会でも危機感を募らせています。

楽しいはずのスカイスポーツが事故によって悲しく辛いものにならないよう、会員の皆さんとともに考えていきたいと思います。

水没

モーターパラグライダーのここ13年間の重大事故をJHFの統計で振り返ってみましょう。

前半は、ライフジャケットなどの緊急浮力体を装着せずに水没し溺死する事故が何件も発生しています。

水に対する認識が甘く、安全マージンを考えない低高度で水上を飛行したり、「エンジンは止まらないものだ」とか「水に落ちても水中でハーネスをはずせば大丈夫」と考えるなど、経験や知識の不足が事故につながったケースが多く見られます。

エンジンは機械です。故障することがあります。飛行中に止まることも考えられます。過去の水没事故を繰り返さないために、「エンジンはいつ止まっても不思議ではない」という認識を持ち、止まってしまったときにどうするかイメージトレーニングをしておくべきです。もちろんフライトルールを守ること、浮力体を装着することは大前提です。

前半の事故では、水没のほか、操縦経験不足による未熟な操作が原因の事故も多く見られます。

ヒューマンエラー

13年間の中盤に入るとさまざまな事故が発生し、操縦ミスやうっかりミスなどヒューマンエラーによる事故が増えています。

安全フライトに「省略」はあり得ません。機材や装備、気象条件やフライトエリアの状況などを一つ一つチェックすることで安全が築き上げられるのです。たとえば、いつも装着している

ライフジャケットをたまたま忘れてしまったが「今日一日ぐらい大丈夫だろう」と根拠のない判断をする、「いつもフライトしている慣れたエリアだから問題ない」と単独で飛行するなど、自分本位の勝手なフライト基準を正しいものと思い込んでしまうことは非常に危険です。

補助動力委員会では、フライト毎に初心に戻りチェックリスト（下）を用いて点検・確認を行う「安全点検確認の標準化」を進めたいと考えています。

機材と技術のアンバランス

最近では、パラグライダーやパワーユニットなど機材の高性能化、また種類

が豊富になり、簡単にフライトできるものが増えたことによる事故も増加しています。

高性能機材にパイロットの技術が追いつかず死亡事故に至ったケースも複数件発生しています。パラグライダーで10年以上の飛行経験を持つベテランパイロットでも、モーターパラグライダー機材に慣れるにはそれなりの練習が必要です。パワーユニットを付けることによって、パラグライダーだけのときは極端な違いが出るからです（パワーユニットが加わった飛行重量と自然重力とエンジンの推進力の合成などで複雑な動きをします）。同じパラグライダーでも「似て非なるもの」

飛行前点検表

分類	名称	点検項目	チェック
エンジン	アクセル	動きがスムーズか、若干の遊びがあるか、ワイヤーの固定は確実か	
	キャブレター	燃料漏れはないか	
	燃料ホース	劣化していないか、破れはないか、接合部に緩みはないか	
	プライマリーポンプ	スムーズに動くか、燃料漏れはないか	
	エアフィルター	接合部は緩んでいないか、きちんと止められているか、汚れていないか	
	プラグコード/プラグキャップ	接合部は緩くなっていないか、断線はないか、キャップは根元まで押し込まれているか	
	プラグ	焼け具合はキツネ色か、プラグキャップは適正か、締め付けは適性トルクで締められているか	
	シリンダーヘッド	ネジの緩みはないか、適正なトルクで均等に締められているか、燃料漏れはないか	
	マフラー	取付部のネジの緩みはないか、破損していないか	
	燃料タンク	変形、傷はないか、漏れはないか、キャップは閉めたか	
装置減速	防震ゴム	劣化はないか、ネジの緩みはないか	
	ギアリダクション	オイル漏れはないか、異音はないか	
ベロ	ベルトリダクション	ベルトのヒビ割れはないか、傷はないか、緩みはないか	
	全体	破損箇所はないか、バランスはとれているか、ガードとの隙間は一定か	
エンジン	接合部	劣化はないか、締め付けトルクは適性か	
	可動部	緩みはないか、亀裂はないか	
ガード	全体	緩みはないか、破損はないか	
	取付けボルト	破れはないか、緩みはないか、均一に張られているか	
配線電気	全体	断線はないか、コネクタは外れていないか	
	接合部	破損はないか、正常に動作するか	
メインスイッチ、キルスイッチ	防護ネット	破損はないか、スムーズに引けるか	
	全体	破損はないか、電圧は適性か	
マイ	メインスイッチ、キルスイッチ	歪み、ヒビ割れ、亀裂、凹みはないか	
	手動	確実に接合されているか	
ハーネス	電動	確実に調整されているか、接合部の緩みはないか	
	全体	破れ、ほつれはないか、劣化はないか	
パラシュート	ベルト・バックル	劣化はないか、調整は適切か、バックルのロックは確実か	
	カラビナ	劣化はないか、ロックは確実か	
レスキュー	フットバー/アクセル	取付は確実か、ラインにほつれはないか、調整は適切か	
	全体	汚れはないか、確実に取り付けられているか、定期的にリバックされているか	
ハンドリング	ハンドル	確実に引き出せるように取り付けられているか	
	ブライダルコード	開傘時に絡まないように取り付けられているか、連結リングは緩んでいないか	

エンジンがかからないときのチェックポイント

点 火	プラグコードは緩んでいないか、適性に取り付けられているか プラグの締め付けは適正か プラグの火花が出ているか	最近よく発電装置のコイルが不具合を起こすこともあります。これらは豊富な整備経験のあるメカニックにお任せください。
圧 縮	シリンダーヘッド等のネジは適正に締められているか 隙間から多量のオイルが漏れていないか 排気管が詰まったり穴が開いたりしていないか	
混合気	燃料は十分に入っているか	
	燃料ホースが劣化していないか 接合部が緩んでいないか	

なのです。それを忘れずに、自分の技術を冷静に判断し適正な機材を選ぶことが大切です。また、独学で練習することは絶対にしないでください。

周囲への配慮不足

モーターパラグライダーは、自由に操れるようになると、これほど楽しいものはありません。しかし、楽しさのあまり周囲への配慮を欠いたフライトをし、事故につながったケースが増えています。

低高度を我が物顔で飛行し、高圧送電線に接触して報道されたり、騒音で地域住民の方々に迷惑をかけて苦情が出るなど、各地で問題が発生しています。自由に飛べるようになればなるほど、周囲への配慮が不可欠であり「飛ぶ＝見られている」という意識を一人ひとりが持ち、エンジン音や飛行高度を考えてフライトしていかないと、事故や苦情は減らないでしょう。

なくならない水没

最近になっても相変わらず水没事故が多く発生しています。ライフジャケットを装着していなかった事故もまだありますが、装着していて起きた事故も増えています。「装着しているから安心」というものではなく、浮力体を取り付ける位置や装着のしかたを再度確認してください。

浮力体は、パイロットとパワーユニット双方に十分な浮力のあるもの、信頼できる製品を装着しましょう。釣り用などの浮力体のなかには浮力が足りないものがあります。

どんなに優れた浮力体でも正常に作動しなければ意味がありません。自動拡張式（水に濡れるとボンベから浮力



どんなときでも着水を想定して万全の準備をしたうえでフライトを楽しみたい。

体に気体が充填される）のものでは、気体の入口が正常に開かずふくらまない、浮力体そのものが折れたりねじれた状態で気体が全量入り切らない、部品の劣化によって気体が出ないなど、十分な浮力が得られないことも考えられます。

浮力体については簡単に考えがちですが、自分の命を守るたいへん重要なものです。その特性や機能を理解したうえで装着しなければなりません。インストラクターのアドバイスを受け、慎重に選定、装着、点検する必要があります。

国内のエリアでは飛行範囲内に水のないところはまずありません。多くの事故は想定外のことが重なったときに起きています。飛行するかもしれないところに水があるなら、モーターの有無に関係なく着水の備えをすべきです。

また、水辺のエリアでは、万一のときのために救助用ボートなどを確保することも必要でしょう。



左からMPG安全セミナー資料、PG教本副読本、1999年の安全性委員会着水実験のビデオ（現在頒布無し）。

モーターパラグライダーがこれから変わらざるフライトできる環境を維持していくためには、一人ひとりの安全に対する意識や周囲への配慮が必要です。「今だけよければいい」のではなく、これから始めるフライヤーのためにも事故なく安全にスカイスポーツを楽しみましょう。

今年、補助動力委員会では「2016 MPGパイロット安全セミナー資料」を安全性委員会とともに作成しました。全国各地での安全セミナーに協力しますので、JHF事務局までご連絡ください。

フライトの鉄則：自他の安全を守る

トーイングは慎重に

トーイングは、かつて大事故が発生したことなどから、国内ではしばらく行われていない時期がありましたが、最近はいろいろなところで見かけるようになりました。なかには間違った方法でトーイングを行い、大きな事故になるところだったというケースもあります。見よう見まねで安易にトーイングをするのは危険です。必ず実績ある

インストラクターに相談してください。

迷惑をかけないフライトを

今年に入り、公園に不時着した事故と、緊急パラシュートが開いて浄水場に着陸したというパラグライダーの事故が2件続きました。さいわい被害は発生しませんでした。管理者からは厳重な注意がありました。

クロスカントリー飛行を行うには、

飛行計画が必要です。どのような気象条件で、どこからテイクオフし、どこを目的地とするか。目的地に届かない場合についても、気象条件の急変等の危険回避に備えて、できるだけ多くの着陸予定地を事前に設定しましょう。

航空法で禁止されている空域のほか、人が多い公園や立ち入り禁止区域等は再確認をして、迷惑をかけない安全なフライトをお願いします。

伊藤まり子、アジア女子チャンピオンに！

5月27日～6月3日 カザフスタン タルディコルガン 報告：チームリーダー 岡 芳樹

5月27日から6月3日の日程で、カザフスタンのタルディコルガンで第3回目となるパラグライディングアキュラシーアジア選手権が開催され、日本からは、男子4名女子1名の計5名が参加した。チーム枠は男子5名、女子2名の計7名であったが、日程的に選手の都合がつかず、フルでの参戦にはならなかった。選手の顔ぶれは、男子が岡芳樹、古田岳史、小松理樹、鈴木洋史、女子は伊藤まり子。鈴木選手のみがカテゴリー1国際大会初参加だ。

カザフスタンと聞いて、どこら辺にあるのかわかる人は少ないのではないだろうか。地図を見ると、中央アジアに位置しており、緯度的には北海道とほぼ同じ。今も紛争中のアフガニスタンの北にある。治安的にちょっと心配ではあったが、滞在していたところは全くの田舎でなんの問題も無かった。

殆どが会社勤めであるため、選手全員が大会会場に揃ったのは、レジストレーションの前日、5月26日の夜11時を回っていた。何はともあれ、ロストバゲージもなく全員無事に集まることができ、ほっとする。

5月27日 レジストレーション

ホテルからトラックの荷台にグライダーと一緒に乗りランディングへ。ラン



開会式に臨む日本チームの5人。背後に飛び入りも。



ホテルからトラックでランディングへ移動する。

ディングは真っ平らの草地。標高は海拔約900m。テイクオフはランディングから+320m。距離も近いのでセッティングとしては朝霧エリアとほぼ同様。ただしエリア内に木はほとんど無い。

テイクオフはメインが北向きで4、5機は楽にセットアップできる広さ。サブは東向きの風に対応する、2機がやっとの広さ。問題は、サブテイクオフからランディングは見えるが、メインテイクオフからランディングが全く見えないこと。今回、無線は安全周波数の1波のみが使えるだけで、チーム無線は禁止となったため、テイクオフにいる選手にはランディングの情報が全く入らない。誰が何点で誰が失敗したかなどわからないままテイクオフする。それがプラスと出るか、マイナスと出るかは人それぞれ。

日本選手は4本練習したところでレジストレーションを行った。特に問題も無く終了。参加選手はカザフスタンのBチームを入れ50人。参加国はアジア外からのロシアを含め7カ国であった（日本、中国、韓国、タイ、インド、ロシア、カザフスタン）。

レジストレーションが終了すると、ランディングに設定されていたユルタ（モンゴルのゲルとおなじもの）に招待され、郷土料理で歓待された。味は日本人の舌にも問題はなかったが、不足するのは礼を失するとの文化なのか、量がやたらと多く、しかもどんどん勧めてくるので、かなり難儀をした。

6時からの開会式では、割と短めの来賓あいさつの後、国別スタート順番の抽選があり、日本は最後となる7番を引いた。



小松（左）を鈴木が激励。「狙うぞ、オンパッド！」

5月28日 初日

天気雨が降る中サブテイクオフから公式練習ラウンド。11時過ぎからサーマルコンディションの中、メインテイクオフから競技が開始される。

途中風向きの関係でテイクオフをメイン→サブ→メインと移動することが2回あったが、3ラウンドが終了し、大会規定により選手権として成立を見た。

3ラウンド終了時点で：

総合1位ツーチー（中国）7点、2位キム（韓国）8点、3位タナパット（タイ）9点、岡152点、伊藤292点、小松379点、古田661点、鈴木1179点。女子1位伊藤、2位チャンチカ（タイ）407点、3位インスック（韓国）430点。国別1位韓国14点、2位中国29点、3位タイ32点、4位日本41点。

5月29日 2日目

昨晚雨が降りコンディションが危ぶまれたが、朝起きてみると快晴。絶好のコンディションでスタート。最初のうちはサーマルも無く順調であったが、ラウンドを追うごとにサーマルは強くなり、6ラウンドがスタートするころにはバンバンで朝霧エリアに酷似する状態に。それでも、上位の選手はオンパッドを連発、さすがだ。6ラウンドが終了した時点でコンディションがきつくなりランチブレイク、5時過ぎに風も落ち着き第7ラウンドをスタートするが、ローンチマーシャルからコンディションが急変し風が強くなる兆候があるとのことで、セーフティコミッティーを招集、本日これまでとなる。

その後ミーティングが開催され、主催者側から順調にラウンドが進んでいった場合、最終となる12ラウンドを最終日に行いたいがどうかとの提案がなされた。それに対し、12ラウンドだけではなく、11ラウンドも含め2本を最終日に行う方が良いとの提案がカザフスタンチームから出され、協議の結果、気象予報を考慮して変更もありうるとの条件で2ラウンドを最終日に行うことになった。

6ラウンドが終了したので、最悪の1ラウンドを落とすことができ、いよ

いよこれからスクラッチの戦いになる。

6 ラウンド終了時点で：

総合1位キム13点、2位タナバット14点、3位ツーチー20点、11位岡201点、14位鈴木298点、17位伊藤339点、19位小松431点、22位古田520点。女子1位伊藤、2位インスック457点、3位ヌナバット（タイ）661点。国別1位韓国170点、2位中国180点、3位タイ307点、4位日本1667点。

5月30日 3日目

快晴の朝。ほぼ無風のメインテイクオフから昨日の残り20番から競技スタート。8ラウンドがスタートするところからサーマルが出始め、9ラウンド途中でサーマルがバンバンとなり、テイクオフ・ランディングの風が限界の7m/sを超えるときもあり、ウエイティングかたがたランチブレイクに。その後コンディションは好転せず9ラウンドの途中で本日は終了となる。

8ラウンド終了時点で：

総合1位タナバット18点、2位キム27点、3位ニタット（タイ）31点、13位伊藤359点、15位鈴木371点、17位小松445点、18位岡502点、20位古田530点。女子1位伊藤、2位ヌナバット550点、3位ダギョン（韓国）1076点。国別1位中国280点、2位タイ338点、3位韓国348点、4位日本2014点。

5月31日 4日目

快晴の朝を迎えたが、テイクオフの風が強く、ホテルでウエイティング。



こののびやかな風景！ テイクオフの下には広く真っ平らの草地在り横たわる。

10時にコンディション好転を期待してテイクオフへ。が、風はサイドフォロー。雨も降り始め、再びウエイティングに。しばらく待つと条件は急速に好転し、晴れの正面風2m/sに！

早速9ラウンドの残りを消化。サーマルが活発になる中、すぐに10ラウンドに突入。この後数日は真裏となる南風が吹くとの予報で、昨日決めた2本を最終日に残す話は無かったことにして、続いて11ラウンドもスタート。サーマルはバンバン状態に。発達した積乱雲が接近してきたため、一時中断しランチブレイク。

3時過ぎにテイクオフへ上がるが、風はサイドで3～5m/s。競技を再開しようとする、いやらしく時折6m/s

を超える風が入る。小刻みにウエイティングを続け何とかラウンドを進めようとするが、望みも空しく本日終了に。しかし、すでに11ラウンドを飛んでいる伊藤選手はパッドは外したものの33cmとまとめ、最終ラウンドを待たずに女子チャンピオンを確実にした。

10ラウンド終了時点で：

総合1位タナバット23点、2位ニタット44点、3位ワンホン（中国）48点、9位伊藤373点、13位小松457点、16位岡576点、17位古田621点、19位鈴木658点。女子1位伊藤、2位ヌナバット636点、3位ダギョン1415点。国別1位中国321点、2位韓国399点、3位タイ418点、4位日本2205点。

6月1日 5日目

快晴。しかし風は強め。ウエイティングすることなくサブテイクオフへ上がるが、テイクオフ、ランディングともに5～8m/sと不安定な風のため、本日はキャンセルとなった。

6月2日 6日目

快晴なれど無風。風向きが安定するのを待って9時半前にメインテイクオフから11ラウンドの残りをスタート。サーマルも弱く絶好のコンディションであったが、後半に向かってサーマルが活発となり風向も不安定になる状況に。しかしクローズすることなく10時過ぎには11ラウンドが終了した。予定通り、最終日に最終ラウンドを行うために本日はここまでになる。



ひたすら狙って中心のパッドを踏み。上位選手の精度は非常に高く、一瞬も油断できない。



女子アジア選手権者の座を日本に奪還した伊藤。初日からトップを走り続けた。



女子トップ3。伊藤、揺るがぬ勝利。



総合トップ3。一発逆転もあり得たが……。



国別トップ3。次回は必ずやメダルを！

11ラウンド終了時点で：

総合1位タナバット33点、2位ワンホン49点、3位ソーチー58点、8位伊藤409点、11位小松490点、14位岡588点、15位古田628点、18位鈴木803点。女子1位伊藤、2位ヌナバット647点、3位ダグヨン1417点。国別1位中国337点、2位韓国411点、3位タイ479点、4位日本2293点。

6月3日 最終日

いよいよ最終日。ドン曇りで今にも雨が降りそうな雰囲気だが、テイクオフへ上がる。時折雨が落ちる中、プリーフィングで、12時半にラウンドがスタートできなければ最終ラウンドは行わず、14時までに競技が終了できなければ、その時点で競技終了とする（14時で残っている選手が数人であれば考慮する条件で）ことが決定される。

女子1位だけが揺るがないだけで、総合、国別共に最終ラウンドでひっくり返る可能性は十分にある。総合1位のタナバットは11ラウンドで162点をたたっているの、絶対に外せない。



郷土料理がこれでもかと並ぶカザフスタン式おもてなし。

日本チームとしては失うものは何もないので、何としてでも最終ラウンドを成立させたいところ。しかし10時前に雨は本降りに。

しばらく待つと、風向きは変わらず真裏だが、日が差す状況に。そしてタナバットの願いを裏切るように12時過ぎに風向きが正面の1m/sに変わる。

早速ダミーを出し、いよいよ最終ラウンドがスタート。これで第一関門突破。あとは14時までに全員が飛べるかだけ。選手が数人飛んだところでランディングの風がリミットの7m/sを超え一時クローズ。この調子では14時までに終了できそうもなくなったところで、15時まで延長することがチームリーダーの多数意見で決まる。反対したのは（どうでもよい？）ロシアと中国だけ。風が弱くなったところを見計らってテイクオフをオープンしたりクローズしたりと何とか最終ラウンドを成立させようと頑張ったが、14時過ぎで飛んでいない選手が40人以上となり、タイムアウト。12ラウンドは中止と決定され、成績が確定した。

5時半からランディング場で表彰式が行われ、またまたカザフスタン式おもてなしで大量の郷土料理とウラッカを振る舞われ、その後は、ダンス天国状態に。

女子アジアチャンピオンを奪還できたことと若手が向上してきたことは大変喜ばしいことだが、日本の選手層の薄さを実感した大会であった。何とか

層を厚くして国別でメダルを獲れるように頑張りたい。

カザフスタンの皆さま、JHFをはじめ応援していただいた方々に御礼申し上げます。

気軽にアキュラシー競技を

第1回アキュラシーアジア選手権のチャンピオンであり、今回も選手／チームリーダーとして参加、JHFパラグライディング競技委員長でもある岡芳樹さんからひとこと：

「アキュラシーは究極のコントロールというか、力が必ず結果に出ます。勝つためには自分のグライダーの特性、特にストール特性をよく知ることが重要。もちろんコントロールを確実にマスターすることが前提です。と言うと難しそうですが、まずアキュラシー大会に出て、どんなものか体験してみてください。実績によってハンディキャップがつくので、初めてでも十分に楽しめると思います。

アキュラシーリーグの大会に出るのは簡単です。年齢性別に関係なく、いつでも歓迎します！」

はじめまして。日本学生フライヤー連盟の理事長に就任いたしました中山拓哉です。

昨年度は主に大会の集計をしていたのですが、今年度は3人の副理事長の力を借りて学連を引っ張っていきたいと思います。

副理事長は、東北学連から田邊万作くん（JPA）、関西学連から津田千晶さん、中国学連から福丸貴大くんです。学生大会で優勝するなど、飛びに関する情熱が人一倍強く、アクティブな人たちです。地区間での連携を強化しつつ、よりよい日本学連を作っていきたいなと思っています。

さて、学連として春の一大イベントは新歓です。現在フライヤーの高齢化が進んでいるようですが学生サークルとしては、景気の後押しもあってか、新入生は去年にも負けずたくさん入ってくれているようです。

例えば、私がホームエリアとしている足尾（茨城県。10を超える大学がお世話になっております）では、部員の増加に伴い、昨年度中に3台新しく車を増やし、全部で10台になっていますが、毎週末ほぼ満員御礼になっており、むしろ寝床が足りなくなるほどです（笑）。

一方、関西の方でも多くの部員の獲得に成功しているらしく、鳥取大はこの春に新しく車を買ったそうです。近畿大でも車を買おうという動きがある

と小耳に挟んでいます。活気があって良いですね。

そして田んぼに水も入り、新歓のシーズンが終わったこの時期は、「いかに長く続けてもらうか」を考えています。大学でのサークル活動という位置づけではあるものの、10代のうちからの「空を飛ぶたい」という熱意を学生時代のなかで完結させるのはもったいないので、学連としては次につながるようサポートしていきたいと思っています。

そこで、学生大会やツアーを通じて競技の楽しさを知ってもらったり、他エリアでの飛び仲間や知り合いを増やしたり、仲間とのつながりを深めたりしていく手助けをしようと考えています。それらを通じて、社会に出て引越したり、まとまった時間が取りにくくなったりしても、飛びたい、続けていきたいと思うようになったり、復帰しようと思うきっかけになったりするのではないのでしょうか？

学生大会以外でフライヤーどうしのつながりを手助けするイベントとしては、昨年度、鈴木由路さんや田中元気さんのお力を借りて、復活開催したピンクカップ（競技の特性上、学連の公認ではなく草大会という扱い）がありました。このイベントは社会人と学生、ハングとパラの交流が深まったとしてかなり好評だったので、今年度も引き

続き実施していきたいなと思っています。

また、今年度は長年そのままになっているホームページや競技規定をリニューアルし、時代に則したものに変わっていくとともに、社会人のかたからも「学生が何をやっているのか」が分かりやすいようにしていくつもりです。あわせて昨年度作成した学連の公式Twitter (@jsff_flyer) も活用していこうと思いますので、よろしくお願いします。

まだまだ未熟な学生かもしれませんが、役員一同、精一杯頑張りますので、フライヤーの皆様には引き続き温かく見守っていただけると幸いです。



パラもハングも練習場は大にぎわい。

熊本県・大分県のフライトエリア状況

4月14日以降続いて起きた地震のため、熊本県・大分県では大きな被害がありました。気になるフライトエリアの情報をお知らせします。このJHFレポートが皆さまのお手元に届く頃には、さらに状況が良くなっていることを願います。

熊本県の状況

□俵山エリア（パラフィールド火の鳥スクール）

スクールの方から直接聞いたものではありませんが、倉庫の床が抜けるなどの被害があり、道路が通行止めでアク

セスできないため閉鎖状態のようです。

ホームページを見たところしばらく休業と掲載されていました（電話連絡も取れません）。

□カブト岩エリア（阿蘇ネイチャーランド）

エリア周辺に崖崩れなどがあるのですが、エリアとスクールは通常どおりです。以下、スクールより。

「この度は『熊本地震』の影響でご心配おかけいたしております。幸いにも弊社は建屋、フライトエリア、スタッフにも特に大きな被害はなく、4月27日に営業を再開、いつでも受け入れ可

能な状況です。

併せて地域やアウトドア仲間など被災された方々の援助・協力をしながらの営業となりますので100%の対応ができない場合もあるかもしれませんが、誠心誠意皆さまをお迎えしたいと思います。ぜひぜひ熊本・阿蘇へお越しください！ 阿蘇への安全な交通ルート、宿泊場所などご不明な点はお気軽にお尋ねください。

あえて言うところ…風評被害で観光客が激減し仕事にならないのが一番の被害でしょうか。一日も早く観光客に戻ってきてほしいものです。」(P16に続く)

□大観峰エリア（フリーエリア）

熊本県フライヤー連盟の理事長である矢次真実さんにうかがいました。「ほぼ影響ありませんでした。私も、すでにここで毎週のように飛んでいますし、他県のフライヤーも来られています。」

□天草倉岳エリア（クラブエリア）

影響はないようです。7月17日に天草Xアスロン大会も開かれます

<http://kuratakepara.info/xathlon/>

大分県の状態

大分のフライトエリアは大きな被害はなく、どのエリアも再開、活動しています。



「皆さん、熊本・大分にどんどん飛びに来てください！」

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本〔動力付きパラグライダー（補助動力技能証／MPG技能証課程）〕を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにさせていただくものです。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円（送料別）。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円（送料込）で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所変更届けのお願い

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

<http://jhf.hangpara.or.jp/>

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、東京都在住の方には、各県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

熊本・大分地震被災地への 義援金を募ります

東日本大震災の被災地だけでなく、熊本・大分の方々にもフライヤーの感謝と応援の気持ちを伝えたいと、この「空はひとつ」にお寄せいただいた義援金を、今年8月末までは熊本・大分向けとします。皆さまのご協力をお願いします。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード0005）
巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート214号

発行日：2016年（平成28年）7月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ